

花の女王「ニリンシラネアオイ」を見つめて

飯山の山々を歩いて、多くの植物写真を写している私ですが、野々海高原や鍋倉山そして馬曲の山、カヤノ平、上ノ平、そして桂池や希望湖（のぞみ）それから赤池、一番楽しかったのは赤池でした。そこには「ミツガシワ」の群生や「ミズチドリ」「サワラン」が咲いて、そこには「モリアオガエル」の卵のうが木々にぶら下がっていた。瑞穂の山には「ナニワズ」の花が黄色できれいでした。ある晴れた日の午後、馬曲の山では「ショウキラン」に出会い、いつも熊に怯えながらの山歩きでした。

北信の山には「山ユリ」が沢山咲きましたが、一昨々年は山全体を歩くと山ユリが50%以上減りほんとうに悲しくなりました。富倉方面では峠道の草の中に「コミヤマカタバミ」の赤の花に出会い、それも群生でおどろきました。ある春、孫とフキノトウを求めて山裾に出かけたとき、孫が「おじいちゃん、おじいちゃんの好きな、あったよ」と声をかけられ、ふと見ると「キバナのアマナ」でした。

そんな事があってから次の年の初夏、友人と奥深い山へ行き、山菜取りに草の生茂った山の沢を1kmほど登っていき、多くの「ウド」や「タ

大 平 仁 — (飯山市大字瑞穂 11669)

ラ」を取った。ふっと腰を伸ばして上流を見上げると、どこか紫色の群生の植物があるのに気付いた。すぐ「シラネアオイ」だと直感した。すぐに早足でそこへ行くと沢一面に咲く「シラネアオイ」でした。体中がドキドキでした。カメラのシャッターを切り、そこに腰をおろし、その美しさの余韻にひたった。そして一輪の花を写そうとカメラを向けると、どうもおかしい、花が2個咲いているではないか。きれいでした。私はあえて「ニリンシラネアオイ」とよんだ。今も時々その場所へ行っている。

飯山方面の山には、大変貴重な植物が沢山生育していることに気がついた。三日月池から山ノ内へ行くとき、私が始めて見た植物「朝鮮五味子」であった。しかも赤い実をつけて、山ぶどうの様であった。山ブドウは黒い実、五味子は赤い実、不思議な気持ちであった。それにしても多くの場所を調査する事により、自然が人間に対する不思議を教えてくれた。植物の不思議を思うと、里山と高い山の違いが、人間の心や健康にも触れて来る。

その花や葉や枝の持つ「におい」や「力」が私達の体に良い健康体をくれる事がわかった。

